

## 主題：パウロの書簡における真理の重要な項目

### ——コリント人への第一の手紙

#### メッセージ 2

神の建造のためにわたしたちを霊の人とする十字架の働きを通して、  
すべてを含むキリストを召会の中のすべての問題の唯一の解決として享受す  
る

聖書：I コリント 1:18, 22-24. 2:2, 14-15. 3:1, 3. 6:17. 14:37, 32.  
ヘブル 9:3-4

- I. コリントの人への第一の手紙が啓示しているのは、十字架の働きを通して、  
すべてを含むキリストを享受することが、召会の中のすべての問題を解決  
するということです。十字架につけられたキリスト（弱く、さげすまれた、  
拒絶された）は、奇跡を求める宗教的なユダヤ人にとってはつまずきの石  
であり、また知恵を求める哲学的なギリシャ人にとっては愚かなものでし  
た。しかし、このキリストは、彼らのすべての問題を解決するために彼ら  
が必要とした方でした——2:2, 1:18, 22-24：
- A. キリストを真に享受することには、殺す要素を持つ複合の霊におけるキ  
リストの死が含まれています。それは、わたしたちの日常生活、召会生  
活、仕事において、わたしたちに関係するすべての否定的な人、物、事  
に適用されます。それは、わたしたちが、キリストの復活の命の力によ  
って十字架につけられた生活をする事ができるためです——出  
30:22-25. ペリピ 1:19. 3:10. 詩歌 362, 464 番。
- B. 雅歌がわたしたちに示しているのは、主を愛し追い求める者たちが、山  
を飛び越え丘を飛び跳ねる主の臨在を、主の復活の力として享受する必  
要があるということです。それによって、彼らは十字架を負い、自己を  
否み、主の死に同形化されることができます。わたしたちが復活したキ  
リストを享受するとき、彼はわたしたちを、十字架につけられたキリス  
トご自身の中へ導いて、わたしたちを、旧創造における悪魔の大混乱の  
中にあるすべての問題を征服する者とし、そして新創造のための神聖な  
エコノミーの中でわたしたちに勝利を得させます——2:8-14. ペリピ  
3:10. II コリント 5:17. ガラテヤ 6:15. 詩歌 366 番。
- C. 啓示録第 2 章 7 節が示しているのは、命の木を食べること、すなわちキ  
リストをわたしたちの命の供給として享受することが、召会生活の中の  
主要な事柄であるべきであるということです。召会生活の内容は、キリス  
トの享受にかかっています。すべての問題は、キリストを享受するこ  
とに欠けることによって引き起こされます：

1. 啓示録第2章7節は命の木について述べており、ここの「木」を意味するギリシャ語は、I ペテロ第2章24節の「木」と同じ言葉です。I ペテロ第2章24節は、キリストは十字架での死において、「わたしたちの罪を、ご自身の体において、木 [十字架] の上で担われました」と言っています。
  2. こういうわけで、わたしたちが食べて享受する命の木は、十字架につけられた（木が十字架であることにおいて暗示される——ヨハネ 11:24）、復活した（神の命において暗示される——ヨハネ 11:25）キリストです。わたしたちは、純粋にキリストを享受しているとき、復活の命を現す十字架の殺しを経験しています。このわたしたちの自己とわたしたちのすべての問題を日ごとに殺すことは、復活における神聖な命を解放するためです（II コリント 4:10-12）。
- D. 十字架の働きを通して、キリストを享受して召会の中のあらゆる問題を解決することについての絵は、旧約においてイスラエルの子たちが荒野で三日行ったが、水を見いださなかったときに見られます。彼らはその後、メラに來ました。これは「苦い」を意味します。なぜなら、メラの水は苦くて飲むのには適さなかったからです——出 15:22-26：
1. 三日は復活を表徴します（マタイ 16:21. 使徒 10:40. I コリント 15:4）。この事は、神の民がエジプトから分離されたのが復活の時であったことを示しています。
  2. 第三日は、復活の日と考えることができます。なぜなら、主イエスは三日目に復活したからであり（4節）、また彼は復活の中で命を与える霊として、第三日の実際であるからです（45節後半. ホセア 6:2）。こういうわけで、モーセが苦い水の中に投げ入れた木は、復活したキリストを表徴すると、わたしたちは言うことができるでしょう。なぜなら、イスラエルの子たちが荒野を三日間旅した後、その木は、メラの水の中に投げ入れられたからです。
  3. この木はまた、キリストの十字架、十字架につけられたキリストを表徴します（I ペテロ 2:24. イザヤ 53:5）。こういうわけで、モーセが苦い水の中に投げ入れた木は、十字架につけられた、復活した、命の木としてのキリストであったと言うことができるでしょう。
  4. 苦みの場所であるメラで、モーセは「エホバに叫ぶと、エホバは彼に一本の木を示された」（出 15:25）。モーセが木のビジョンを見て、この木を苦い水の中に投げ入れたのと同じように、十字架につけられ復活したキリストのビジョンを見る必要があります。それは、わたしたちがキリストを享受して、わたしたちの存在の中の苦みにキリストを適用することができるためです。そのとき、苦い水は、安息と完全な満足という、キリストの新鮮にする臨在の甘い水になります——使徒 3:19-20 前半. 詩 23:2 後半. 参照、119:103. エゼキエル 3:3. イザヤ 61:3. 詩 16:11. 30:11-12。

5. わたしたちがキリストの十字架を経験し、十字架につけられた命を生きるとき、キリストの復活の命は、わたしたちのいやしの力となり、主がわたしたちのいやし主とされます——出 15:26。
6. キリストの死の苦しみは、わたしたちの死をいやして、わたしたちがキリストの復活の中で生きることができるようにしました。復活の領域の中で、キリストの死を経験して享受すること（ピリピ 3:10）は、わたしたちの存在の中の苦みをすべて、甘いものとしませ（参照、Ⅱコリント 1:8-9, 12 とフットノート 2）。
7. 「おお！ この世と、自己と、罪とに対して、キリストと共に死ぬことは何と甘いことでしょう。おお！ キリストが内側で生き支配するときに、キリストと共に生きることは、何と甘いことでしょう」（詩歌 365 番、折り返し、英文）。

Ⅱ. コリント人への第一の手紙の目標は、コリントの魂的であり、肉の人であり、肉的である信者たちを動機づけて、命の成長を慕い求めさせ、彼らを神の建造のために霊の人にならせることです。コリント人への第一の手紙は、信者が三種類の人のうちの一つであることを啓示しています——2:15, 3:1, 3, 14:32, 37 :

- A. ある信者は、霊の人であって、自分の霊の中に生き、聖霊の油塗りの下にいるでしょう——ローマ 8:4, 6. ガラテヤ 5:25. Ⅰコリント 15:45 後半, 6:17. 参照、啓 2:5, 16, 21. 3:3, 19 :
  1. 霊の人とは、肉にしたがって振る舞わず、魂の命にしたがって行動せず、霊（神の霊とミングリングされた自分の霊）にしたがって生活する人です。そのような人は、自分の霊によって支配され、管理されています——ピリピ 2:1. Ⅰコリント 2:15。
  2. 霊の人は、自分の魂を否み、自分の魂によって生きず、自分の霊に、すなわち、神の霊によって占有され力づけられている自分の再生された霊に、自分の全存在を支配させます。彼は自分の霊を活用することによって、人の事柄を知り、神の霊の中へと導かれて、神の事柄を知るようになります——11-12 節. 参照、ローマ 8:16. Ⅰコリント 6:17。
  3. 霊の人は、自分のミングリングされた霊によって支配され、統治され、方向づけられ、動かされ、導かれます——5:3-5 前半. 6:17. Ⅱコリント 2:13-14. Ⅰテモテ 4:7-8. Ⅱテモテ 1:6-7. 参照、マラキ 2:15-16。
- B. ある信者は、魂の人であって、自分の魂の中に生き、天然の命である魂の支配の下にあるかもしれません——Ⅰコリント 2:14. 参照、ヘブル 4:12:
  1. 魂の人とは、天然の人であって、自分の魂（思い、意志、感情）に自分の全存在を支配させ、自分の魂によって生き、自分の霊を軽視し、自分の霊を用いず、自分が霊を持っていないかのように振る舞いさえする人です——ユダ 10, 19-21, 24-25 節。
  2. そのような人は、神の霊の事柄を受け入れず、知ることもできません。そのような天然の人にとって、神の霊の事柄は愚かです——Ⅰコリント

1:22-23——

C. ある信者は、肉の人、肉的な人であって、肉に属し、肉の中で生き、肉の性質の影響の下にあるかもしれません——3:1, 3 :

1. 「肉の」は、肉から造られていることを示します。「肉的な」は、肉の性質の影響を受けており、肉の特徴を持っていることを示します。
2. コリントの信者たちの間にあったねたみや争いは、彼らが墮落した人の肉にしたがって歩いており、神によって再生された人の霊にしたがって歩いていなかったことを示しています——3-4 節. 1:11-12. ガラテヤ 5:19-21。

D. 主の願いは、すべての信者が主の恵みを取って、最初の種類の人、すなわち、霊の人になることです (6:18. 啓 4:1-2)。わたしたちは神によって、今や命を与える霊 (I コリント 15:45 後半) であるキリストの交わりへと召されて (1:9)、彼と一つ霊です (6:17)。ですから、わたしたちは霊の中に生き、聖霊の導きの下にあるときにはじめて、彼を経験し享受することができます (ローマ 1:9. 7:6. 8:4, 14)。

Ⅲ. 天の御座に座しているそのキリストは (ローマ 8:34)、今やわたしたちの中にも (ローマ 8:10)、すなわちわたしたちの霊の中にもいます (II テモテ 4:22)。この霊は、神の住まいである所です (エペソ 2:22)。旧約の至聖所は、キリストを予表する、契約の箱でした。「その中には、マナが入っている金のつぼと、芽を出したアロンの杖と、契約の板とがありました」 (ヘブル 9:3-4) :

A. 隠されたマナは、わたしたちと神との間に隔たりがないときに、神の臨在の中でわたしたちが享受するキリストの分け前です。わたしたちと主との間に隔たりがないとき、わたしたちは最も親密で隠された方法でキリストを享受します。これが隠されたマナ、隠されたキリストの分け前を享受することです——出 16:31-36. 啓 2:17 :

1. わたしたちが隠されたマナを享受したいなら、わたしたちと神との間に隔たりがあってはなりません。わたしたちと主との間の隔たりはすべて除き去られなければなりません。
2. わたしたちは主に対して務めをし、彼を隠されたマナとして享受するとき、彼との直接の交わりを持ち、彼の心と意図を知ります。主の臨在の中で、わたしたちは彼をもって、彼の意図をもって、彼がわたしたちに行なってほしいすべてのことをもって、託されることができます——エゼキエル 44:15-18。
3. わたしたちは主に対して務めをするとき、神の委託を持ちます。なぜなら、わたしたちは神の臨在の中におり、わたしたちと神との間には何の隔たりもないことを認識しているからです——参照、使徒 13:1-3。

B. 芽を出した杖は、復活した方であるキリストを表徴し、わたしたちの内側にある、わたしたちの命、わたしたちの生活、復活の命であるべきです。この命は芽を出し、開花し、実を結んで円熟すべきです——民 17:8 :

1. イスラエルの子たちが反逆した後、民数記第 16 章において記録されているように、神は十二人の族長たちにイスラエルの十二部族にしたがって十二本の杖を取り、それらを証しの天幕の中にある契約の箱の前に置くように命じました。それから彼は言われました、「わたしが選ぶ人の杖は芽を出す」——17:5。
2. 十二本の杖はすべて葉がなく、根がなく、乾いており、枯れて、死んでいました。芽を出した杖はどれであれ神によって選ばれた杖でした。ここでわたしたちが見るのは、復活が神の選びの根拠であるということと、奉仕の根拠がわたしたちの天然の命の外にあるものであるということです。こういうわけで、芽を出した杖が表徴するのは、わたしたちが復活のキリストを経験して、神に受け入れられ、神の与えられた務めにおいて權威を持つということです——9-10 :
  - a. わたしたちができることは、天然の領域に属します。わたしたちができないことは、復活の領域に属します。人は自分自身が終わらされなければなりません。そうしてはじめて、人は自分が全く役に立たないことを確信します——マタイ 19:26. マルコ 10:27. ルカ 18:27。
  - b. 人は自分自身にできないことを認識したことがないなら、決して神にできることを経験することはできません。復活が意味するのは、わたしたちができないということと、神がすべてのことを行なった方であるということです——参照、II コリント 1:8-9. 4:7。
- C. 契約の板、すなわち、律法の板が表徴するのは、神聖な命の法則、すなわち、神聖な命の自然な力、自動的な機能、本来の能力、神聖な性能です——エレミヤ 31:33. 32:39. ヘブル 8:10. 参照、ローマ 8:10, 6, 11. 10:12-13 :
  1. この性能にしたがって、わたしたちは神を知り、神を生き、神の命と性質において神をもって構成されることができます。それはわたしたちが彼の増し加わり、彼の拡大となり、彼の豊満となって、彼を永遠に表現するためです——エペソ 1:22-23. 3:19-21。
  2. さらに、命の内なる法則の性能は、わたしたちをキリストのからだの肢体に構成し、あらゆる種類の機能を持たせます——4:11, 16。
  3. 神聖な命がわたしたちの中で成長するとき、命の法則は機能してわたしたちを神の長子であるキリストのかたちに形づくり、同形化します。命の法則の機能を通して、わたしたちはみな神の円熟した子たちとなり、神はご自身の宇宙的な表現を得ます——ローマ 8:2, 29. イザヤ 43:7. 啓 21:10-11。